

1 主題名 亡くなった人が残したもの

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

(19) [生命の尊さ]

生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること

2 資料と出典 おばあちゃんが残したもの（出典：東京書籍『新しい道徳』）**3 主題設定の理由**

(1) ねらいとする道徳的価値

主題の「亡くなった人が残したもの」は、つながりの中にある生命を感じ、かけがえのない生命を尊重し、大切にしようとする心情を育てる指導を充実していこうとするものである。

個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることは、大切である。また、様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命がはぐくまれ存在することや生命の神秘、受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようにすることも大切である。

(2) 児童の実態（令和3年6月14日実施 男子15名 女子15名 計30名）

1 生命は大切だと思う	とてもそう思う 26人 あまりそう思わない 0人	そう思う 4人 そう思わない 0人
2 生命を大切にしている	とてもそう思う 14人 あまりそう思わない 8人	そう思う 8人 そう思わない 0人
3 生命を大切にする理由がわかる	とてもわかる 10人 あまりわからない 8人	わかる 10人 わからない 2人

本学級の児童は、友達とのつながりを大切にしている児童が多い様子が、言葉遣いや態度からも見取ることができる。しかし、感情的になると、心ない言葉を発する児童も見られる。アンケートから、「生命が大切だと思っている」児童が多いことがわかるが、「生命を大切にしている」のアンケートからわかるように、行動に移すことができない児童が一定数いることもわかる。また、「生命を大切にする理由がわかっていない」児童が学級の三分之一を占めていることから、理由がわからないために生命を大切にする行動に移すことができないと推測することができる。よって、本学級の児童には、生命を大切にする行動を実践していこうとする心情を育む必要があると考えられる。

(3) 資料について

本資料は、肺がんでおばあちゃんを亡くしたぼくが、おばあちゃんとの過去を思い返しながらかしみを乗り越えて、おばあちゃんのように周りの人を幸せにするような人になろうとする話である。おばあちゃんと過ごした日々を思い返すぼくの気持ちを考えさせることで、人の心が受け継がれていくことや、命のつながりについて考えを深めさせていく。また、本資料を通して、なぜ生命を大切にしなければいけないのかを他の人とのつながりという面から考え、生命は支え合いの中で成り立っている、かけがえのないものだということに気付かせたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

○ つながりの中にある生命を感じ、かけがえのない生命を尊重し、大切にしようとする心情を育てる。

- ・ 家族や仲間とのつながりの中で生きていることの素晴らしさについて自覚する。
- ・ 周りの人が自分に対してしてくれたことについて考える。
- ・ 生命を大切にする行動を考え、実践していこうとする意欲を育てる。

(2) 準備・資料

掲示用資料（教科書の挿絵）、児童用ワークシート、児童のネームマグネット

(3) 展 開

過程	主な活動と発問	児童の思いやふくらみ	教師の支援（・全体※個別◎評価）
き づ く	1 周りの人にされてうれしかった経験について考えている。	・遊びに誘ってくれた。 ・落ち込んでいる時に励ましてくれた。	・誰でも答えられるような発問を通して、発言しやすい雰囲気を作る。
ふ か め る	2 教師の範読を聴き、資料について考える。 ○ 主人公の「ぼく」の気持ちについて考えましょう。		・児童が感情移入しやすいよう、抑揚をつけて範読する。 ・児童が聴いている様子を見ながら教室を巡回し、範読する。
	発問① おばあちゃんが亡くなったとき、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。		
	・「ぼく」の気持ちをワークシートに書く。 ・ワークシートに記入したことを発表する。	・これから会えなくなると思うと寂しい。 ・赤ちゃんが見られてよかった。 ・今までありがとう。 ・もっと長生きして欲しかった。	※考えつかない児童のために、書いている児童が記入したことの一部を声に出して言いながら机間指導する。 ・発言した児童のネームマグネットを黒板に貼る。 ※児童が書き終わるまで十分な時間をとる。
	発問② 「おばあちゃんは今でもぼくの心の中で生きています」という言葉に、「ぼく」のどんな気持ちが表れているでしょう（中心発問）。		
	・「ぼく」の気持ちをワークシートに書く。 ・隣の人と書いた意見を見せ合い交流する。 ・ワークシートに書いたことを発表する。 ・次に発言する児童を指名する。	・つらい時や悲しい時は、おばあちゃんが励ましてくれる。 ・楽しかった思い出は、これからも「ぼく」を幸せにしてくれる。 ・おばあちゃんの生き方が「ぼく」の目標になっている。	※発問の意図が捉えられていない児童には、「ぼくはこれからどんな気持ちで生きていくか」と発問を易しくして問いかける。 ・隣の人意見を参考にしてもよいことを伝える。
み つ め る	3 自分のことについて見つめ考える。		
	発問③ これから、どのようなことを意識して家族や仲間と生活していきますか。		
	・自分の気持ちについてワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことを発表する。	・周りの人に感謝しながら生活する。 ・困っている人を助けたい。 ・仲間と協力し合って楽しみたい。	・資料のことと切り離して、自分のこととして考えるよう言葉掛けをする。 ◎ 自分にできる生命を大切にする行動を考え、実践していこうとする意欲が芽生えたか。（ワークシート・発言）
た か め る	4 本時の学習について振り返る。 ○ 今日の授業で考えたことを書きましょう。	・人とのつながりを大事にする気持ち。 ・生命を大切にする。 ・みんなで生きている。	・板書に書いたことを見て、今日の授業で考えたことを全体で振り返る。